

予算特別委員会記録

1. 日 時 平成28年6月7日(火)

午後2時50分 開 議

午後3時40分 閉 会

2. 場 所 白鷹町役場 議 場

3. 議 題 (1) 議第82号 平成28年度白鷹町一般会計補正予算(第1号)の
質疑、採決

(2) 議第83号 平成28年度白鷹町国民健康保険特別会計補正予算
(第1号)の質疑、採決

○出席委員(13名)

2番	笹原俊一	委員	3番	佐々木誠司	委員
4番	小口尚司	委員	5番	小形輝雄	委員
6番	樋口与一朗	委員	7番	田中孝	委員
8番	山田仁	委員	9番	奥山勝吉	委員
10番	石川重二	委員	11番	佐藤京一	委員
12番	菅原隆男	委員	13番	関千鶴子	委員
14番	今野正明	委員			

○欠席委員(なし)

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	佐藤誠七
副町長	横澤浩
教育長	沼澤政幸
総務課長	松野芳郎
税務出納課長	田宮修
企画政策課長	湯澤政利
企画主幹	永野徹
町民課長	中村裕之
健康福祉課長	齋藤春美
産業振興課長	齋藤重雄

農林主幹併 農業委員会事務局長	菅	間	直	浩
建設水道課長	今	野	秀	一
病院事務局長	渡	部	町	子
教育次長	菅	原	良	教
総務課長補佐	長	岡		聡
財政係長	小	林		裕
農業委員会会長	樋	口	太	一

○職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	樋	口		浩
係長	橋	本	達	也
書記	佐	藤	圭	子

○開議の宣告

○委員長（菅原隆男） ご参集まことにご苦労さまです。

これより予算特別委員会を開会いたします。

出席委員は全員であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日開催の第3回白鷹町議会定例会本会議において本委員会に付託された平成28年度白鷹町一般会計補正予算（第1号）並びに平成28年度白鷹町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について審査を行います。

審査の方法は、各会計最初に補正予算説明書の概要により説明を受けた後、一問一答形式で審査を行った後、議案番号順にそれぞれ採決いたします。

○議第82号の説明、質疑

○委員長（菅原隆男） それでは、議第82号 平成28年度白鷹町一般会計補正予算（第1号）についてを議題とします。

質疑は、説明を受けた後、歳入歳出一括して審議をしたいと存じますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長（菅原隆男） ご異議がないので、そのように進めることに決しました。

なお、質問される方、答弁なさる方はそれぞれ簡潔明瞭にされるよう申し添えます。また、質問される方はページをお示してください。

初めに、補正予算説明書の概要について説明を求めます。松野総務課長。

○総務課長（松野芳郎） ご説明申し上げます。

予算説明書の概要2ページをお開きいただきたいと思います。

歳入歳出の主なる事項につきましてご説明をいたします。

概要でございますが、若者定着奨学金返還支援事業や企業立地促進事業による企業支援への対応を初めといたしまして、豪雨等により被害を受けた林道・河川等の災害復旧対応や町道・橋梁等の維持工事のほか、ICT教育環境整備推進事業等について措置をいたすものでございます。また、木材の活用と再生林を支援するため、森林再生基金への積み立てに対応いたすものでございます。

歳入からご説明をいたします。

款、補正額及び概要の順に説明を申し上げます。

13款国庫支出金、198万9,000円。社会保障・税番号制度システム整備費補助金161万

4,000円、社会保障・税番号制度に係る総合テスト等に対する補助金でございます。放課後児童クラブ環境改善整備推進事業費補助金37万5,000円、東根児童クラブふれあいうちが実施をいたしますICT機器整備等についての補助金でございます。

14款県支出金、299万円。ひとり親家庭生活応援給付金及び住まい応援給付金事業42万円、ひとり親家庭の親向けに支給する生活応援給付金及び住まい応援給付金に対する補助金でございます。骨髄移植ドナー助成事業補助金7万円、骨髄ドナー助成制度による骨髄提供者支援に対する補助金でございます。中山間地域等担い手収益力向上支援事業100万円、中山間地域等において収益力向上を目指す担い手の取り組みへの支援に対する補助金でございます。ICT教育環境整備推進事業費補助金150万円、小学校へのICT機器導入に対する補助金でございます。

15款財産収入、1万6,000円、森林再生基金利子相当分の計上でございます。

17款繰入金、750万円、ふるさと応援基金繰入金でございます。

18款繰越金、5,741万9,000円。繰越金の状況につきましてでございますが、予算計上累計額といたしまして2億7,741万9,000円でございます。

19款諸収入、637万3,000円。地域活性化センター助成金234万円、公共スポーツ施設等活性化助成事業に対する地域活性化センターからの助成金でございます。コミュニティ助成事業250万円、一般コミュニティ助成事業に対する自治総合センターからの助成金でございます。

20款町債、1,420万円。過疎対策事業債1,000万円、災害復旧事業債420万円。

続いて、歳出でございます。

2款総務費、757万2,000円。情報処理費（マイナンバー運用テスト等業務委託料）242万2,000円、共同アウトソーシング事業における社会保障・税番号制度に係る総合テスト等を行うための対応でございます。コミュニティ助成事業250万円、コミュニティ助成事業助成金を受けて、蚕桑地区桜の里づくり推進委員会が行うテントや音響設備等のコミュニティ活動用備品の整備に要する経費について助成をするものでございます。地区コミュニティセンター費（分館施設整備費補助金）150万円、申請の増加見込みに基づく追加計上をいたすものでございます。

3款民生費、512万円。障害者自立支援給付事業（システム改修委託料）378万円、社会保障・税番号制度に係る障がい者福祉システムの改修を行うための対応でございます。ひとり親家庭生活応援給付金及び住まい応援給付金事業でございまして、84万円でございます。ひとり親家庭が自立し、安心して暮らせることを目的といたしまして、高等職業訓練促進給付金を受給しているひとり親家庭の親に対して、生活応援給付金及び住まい応援給付金を支給するための対応でございます。放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ環境改善整備推進事業補助金）50万円、東根児童クラブふれあいうちが実施す

るパソコンやタブレット端末等のICT機器整備等に対して支援をするための対応でございます。

4款衛生費、14万円。骨髄移植ドナー助成事業14万円、骨髄移植を推進するため、ドナー休暇制度のない骨髄提供者に対して、骨髄提供のために要した通院、入院等に係る費用の一部を助成するための対応でございます。

6款農林水産業費、1,118万1,000円。中山間地域等担い手収益力向上支援事業100万円、中山間地域等において、農地中間管理機構等から新たに農地を借り受けて経営の規模拡大や収益性の高い作物の導入により地域の特性に応じた収益力の向上を図る意欲ある担い手の取り組みを支援するための対応でございます。森林再生基金積み立て1,000万円、内容につきましては先ほど基金設置条例等で審議をいただいたものでございます。

7款商工費、1,316万4,000円。若者定着奨学金返還支援事業296万4,000円、将来の担い手となる若者の県内回帰・定着を促進し、地域の中核企業等を担うリーダー的人材を確保するため、奨学金の貸与を受ける大学生等を対象に実施する奨学金の返還支援制度について、県へ出捐するための対応でございます。企業立地促進事業1,000万円、申請の増加見込みに基づく追加計上でございます。

8款土木費、2,992万7,000円。町道維持補修費1,730万円、路面補修等の安全対策を初めとした維持補修工事等の追加計上でございます。予定箇所の子な状況でございますが、木之下線、鮎貝沢木枕線、深山枳窪黒鴨線、殿町新町線ほかでございます。橋梁維持費430万円、橋梁の安全対策を初めとした維持補修工事等の追加計上でございます。予定箇所といたしましては、上絹市川橋でございます。都市計画総務費（都市計画道路整備工事）730万円、都市計画道路の安全対策を初めとした維持補修工事の追加計上でございます。予定箇所といたしましては荒砥駅館の内線を予定しているものでございます。

9款消防費、130万円の減額。地域防災活動強化支援事業130万円の減額、内容につきましては、地方創生加速化交付金を活用した地域コミュニティ共創プロジェクト事業、明許繰り越し分でございますが、これで対応するための減額対応でございます。

10款教育費、898万円。ICT教育環境整備推進事業530万円、学校現場におけるわかりやすい授業づくりの推進に向け、タブレット端末やプロジェクター付ホワイトボード等を小学校に導入するための対応でございます。生涯学習推進費（中学生・高校生ボランティア活動補助金）2万3,000円、会員が増加しております中学生・高校生ボランティアの活動を支援するための対応でございます。スキー場運営事業費（備品購入費）255万6,000円、地域活性化センター助成金を受けて、スキー場タイム計測システムを導入するための対応でございます。

11款災害復旧費、1,570万3,000円。林業豪雨災害復旧事業費650万3,000円、過年度の

豪雨により被害を受けた林道について、工事請負費の追加計上でございます。予定箇所といたしましては、黒鴨線、北ノ入線、白鷹線等を予定しております。道路河川災害復旧事業費920万円、過年度の豪雨等により被害を受けた河川等について、工事請負費の追加計上でございます。予定箇所といたしましては、唐松沢、黒鴨荒山線、釜ノ沢を予定してしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（菅原隆男） 説明が終わりました。

質疑を行います。歳入歳出一括してお願いします。3番、佐々木委員。

○3番（佐々木誠司） 概要書の3ページの民生費についてお伺いいたします。ひとり親家庭応援給付金及び住まい応援給付金事業ということで84万円が計上されておりますが、この具体的な中身について、また何名の該当者がいらっしゃるのかなども含めましてご説明をお願いいたします。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） お答え申し上げます。

ひとり親家庭に対する助成ということで概要のほうで説明させていただきましたけれども、高等職業訓練促進給付金を受けている方という前提になっておりますので、県のほうで把握している方は1名ということでございます。

内容といたしましては、先ほども説明申し上げましたけれども、県が月10万円の補助を行っておりますけれども、さらに町として上乗せの生活応援給付金月額5万円の補助及びアパート等に住んでいらっしゃる方があれば住まい応援給付金ということで月額2万円の補助ということで、県が2分の1補助をするという内容になっております。該当者は1名ということで計上させていただきました。

○委員長（菅原隆男） 3番、佐々木委員。

○3番（佐々木誠司） 該当者は1名ということでございますが、これは県のほうに申請をした方が該当だということだと思いますが、ほかにも該当者がいるのにもかかわらず申請またはこういった制度を利用されていない方もいらっしゃるということなのか、その辺どちらなのでしょう。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） ご説明申し上げます。

今年度の対象者といたしましては、県では30名ということで聞いております。その中に町内に1名の方が該当しているという情報でありまして、さらに該当者がいるかどうかの把握まではしていない状況でございます。

○委員長（菅原隆男） 3番、佐々木委員。

○3番（佐々木誠司） わかりました。町内にほかにも該当される方がいらっしゃって、

そういった事業があるということを知らないでいてせっかくの事業を利用されない方がいらっしやったら非常にもったいないなと思ったところでしたので、県が中心となってやることだと思うのですが、町でもそういったPRなども一生懸命進めていただけたらよろしいのではないかなと思います。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） お答え申し上げます。

この事業におきましても、町の予算編成が終わった後に県でも新規事業として確定したと聞きましたので、新規の当初予算には計上することができませんでした。今後は町内の方に周知をするような形で広く利用していただきたいと考えております。

○委員長（菅原隆男） 3番、佐々木委員。

○3番（佐々木誠司） 続きまして、5ページの災害復旧費に関しましてお伺いいたします。道路河川災害復旧事業費ということで920万円を計上されておりますが、これは先日、産建文教常任委員会でも説明をいただきましたが、唐松沢とそれから黒鴨荒山線の災害復旧工事だということでお伺いいたしました。あと釜ノ沢線とありますけれども、これはいずれも一度災害を受けてまたこのたびの雨で災害を受けたと。要するに再度被災したという場所のようです。平成25年、26年と続けて災害があったわけでございますが、あのときも25年で一度災害を受けて、それを復旧した後に26年でまた同じ場所が災害を受けた、再被災した場所というのはたしか5カ所あったと思います。ということは、被災をするその原因にもよると思うのですが、中には例えば上流のほうの水路が飲み切れなくなって下流の想定外な方向にあふれたために土手が崩れたとか、そういう特定のできる原因などもあるようですが、そういった部分の根本的な原因の調査というのは進めていらっしゃるのでしょうか。

○委員長（菅原隆男） 今野建設水道課長。

○建設水道課長（今野秀一） ご説明申し上げます。

災害復旧箇所の手定箇所といたしましては、唐松沢それから黒鴨荒山線ということで手定してございますけれども、この2カ所とも25年、26年の豪雨災害時に被災をした箇所でございます。このたびゴールデンウィーク前の4月30日から5月1日にかけて降雨があったわけですが、西側地区が累計雨量で56ミリほど降ってございます。公共災害に該当するにつきましては累計80ミリ、時間20ミリという雨量があるわけですが、その雨量には達していないということではあります、復旧した箇所がやはり再度被災をしてしまったということでございます。雨量的には56ミリというものの大分水かさが増しまして、唐松沢につきましては、河床が洗掘されまして、ちょうど水衝部と言われるカーブの部分の河床部が洗掘されまして、土台部の下があきまして土台が折れてしまったというものでございます。唐松沢につきましては大分集水面積もあると

ということで、大雨が降れば大分集まってくるというような箇所でございます。

災害の原因としましては、その集水区域からの大量の雨による沢の洗掘ということでございます。そういった原因等については調査等も行っているわけでございますけれども、災害復旧そのものについては原形復旧というのが原則でございます、その原因対策というところまでについては補助事業では対応できないというような状況でございます。ほかの箇所でも、原因の部分については単独のほうで対応してきた箇所もございますけれども、なかなか原因の部分の対応というところまではいっていないというのが状況でございます。

○委員長（菅原隆男） 3番、佐々木委員。

○3番（佐々木誠司） やはり一度直したところというと、近隣の住民の方にとっては直してもらって非常によかったと、安泰したとなったところに、まさかまた同じく崩れると思わなかったというようなこともあって、本当に大丈夫なのか雨が降ればうかうか寝てもいられないなということもあると思います。やはりせっかく直したところがまた崩れるということは、それだけ二重三重にお金もかかることでありますし、そこを工事した人にとってもせっかく一生懸命頑張って復旧したところがまた崩れたとなると非常に悲しいものがございますので、十分調査なされまして、本当に原因の特定できるものに関しましては早目に、今度は災害復旧対応という形ではなくて整備を進めていただきますようお願いいたします。

○委員長（菅原隆男） 10番、石川委員。

○10番（石川重二） 唐松沢の件ですけれども、非常に流れが急な沢で、しかもカーブがあってあそこはうねりがあって下がえぐられたように見受けられるのですが、当初の補正の段階の見積もり段階でそのところを余り深くまで徹底していなくて川床がえぐれてしまったような感じで見受けられたのですが、その辺も含めてははっきりと調べていただきたいと思います。

○委員長（菅原隆男） 要望ですか。要望でいいですか。（「はい」の声あり）ほかに。13番、関委員。

○13番（関 千鶴子） 予算書の9ページですけれども、教育費、生涯学習推進費減額80万円、その下の文化振興費減額70万円、そしてこの特定財源その他というのはふるさと応援基金ですか。

○委員長（菅原隆男） 小林財政係長。

○財政係長（小林 裕） お答えいたします。

生涯学習推進費のその他80万円の減額と文化振興費のその他の70万円の減額は、ともにふるさと応援基金からの繰入金となっております。

○委員長（菅原隆男） 関委員。

○13番（関 千鶴子） そうしますと、先ほど条例化になった森林再生基金積み立てのふるさと応援基金1,000万円全額というふうなところに充当したと理解してよろしいですか。

○委員長（菅原隆男） 小林財政係長。

○財政係長（小林 裕） お答えいたします。

今委員おっしゃるとおりでございまして、歳入の750万円の取り崩しが新たに取り崩す分でございまして、今ご説明いたしました生涯学習推進費と文化振興費、あと概要書の5ページ、9款の消防費の100万円の減額分を合わせまして1,000万円を森林再生基金に充当したものでございます。

○委員長（菅原隆男） 13番、関委員。

○13番（関 千鶴子） 消防費のほうは、これは財源の減額対応なのでふるさと応援基金繰り入れが減額100万円になったのかなと理解をさせていただいて、理解しましたけれども、この生涯学習推進費と文化振興費、生涯学習推進費は白鷹学開催事業委託料、これは当初で100万円ついていて、80万円だけがふるさと応援基金だったのかなと改めて思ったのですけれども、当初予算が6月の補正で減額、財源を減額したということなんでしょうけれども、こういう手法をされた理由をお聞きしたいと思います。

○委員長（菅原隆男） 小林財政係長。

○財政係長（小林 裕） お答えいたします。

今ありました生涯学習推進費のところと文化振興費のところの減額でございしますが、減額補正の理由といたしましては、概要書の5ページの9款消防費の地域防災活動強化推進事業と同じ理由でございまして、27年度の3月補正でご決定いただきました地方創生加速化交付金を活用しました明許繰越事業の地域コミュニティ共創プロジェクト事業にて対応を図ることから、同様に減額させていただいたものでございます。

○委員長（菅原隆男） 13番、関委員。

○13番（関 千鶴子） そうしますと、数字上は80万円、70万円減額になっているけれども、地方創生加速化交付金を充当するというところでよろしいですか。

○委員長（菅原隆男） 小林財政係長。

○財政係長（小林 裕） お答えいたします。

今委員おっしゃるとおりでございまして、事業の予算といたしましては、27年度から28年度に繰り越ししました事業費で事業を執行するものでございます。

○委員長（菅原隆男） 13番、関委員。

○13番（関 千鶴子） 今うだうだご質問しましたけれども、なかなかここまで私も理解するのに大変でした。なので、ちょっと工夫していただいてというか、わかりやすい説明をお願いしたいと思います。

○委員長（菅原隆男） 小林財政係長。

○財政係長（小林 裕） お答えいたします。

今お話しいただきましたように、なかなか難しい点につきましては概要のほうで説明するように心がけていきたいと考えております。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） 概要書の3ページ、総務費の地区コミュニティセンター費（分館施設整備費補助金）について、具体的な内容について説明を求めます。

○委員長（菅原隆男） 湯澤企画政策課長。

○企画政策課長（湯澤政利） お答えをいたします。

分館施設整備費補助金につきましては、当初で予算を計上しておりましたが、その後今年度に入りまして再度各分館の施設整備の計画等について調査をさせていただいたところでございます。その結果、当初の予算の金額より超えた要望内容をいただいたというところでございますので、それらに対応するために今般補正をお願いするものでございます。昨年の秋、需要の調査についてということで調査をさせていただいた中で予算を計上させていただいているところでございますが、やはり年度が変わりまして、その地区の総会なりそれから役員会等をした中で、早期に対応すべきだというような判断のもとで再度調査した中でご要望いただいたというような案件がございまして、それらについて対応するというので今般補正をお願いするものでございます。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） 分館については、非常に建設当時いろいろな予算、補助金を使ってやっているところと、全くの自腹といいますか、地区民がお金を出してつくった分館といろいろあるわけですけれども、この分館も非常に古いところもあるという中で、大体築年数の平均と、何カ所ぐらいの分館があるのでしょうか。特に、自前で建てた分館というのは大体どれくらいあると把握していらっしゃるのかお伺いします。

○委員長（菅原隆男） 湯澤企画政策課長。

○企画政策課長（湯澤政利） お答えをいたします。

ただいま委員のご質問にありました部分の詳細の資料というものは持ち合わせしておりませんが、古い部分ではかなり相当古い部分がある。例えば浅立の分館などは、分校を町のほうで就業センターというような形で改造して、さらに分館というような形で地区で活用しているというような事例もございますので、古いものについては相当古いものがあるのではないかなと思っているところでございます。

それから、分館の総件数については、70数館だというふうに承知をしているところでございます。

なお、分館においては、地域づくりなり、町の補助とか直接町が整備をいたしまして分館として活用いただいているものと、やはりご質問あるようにそうでない分館もある

というような形では承知をしているところでありまして、やはり古い部分については傷みが激しい部分もあると承知をしているところでございます。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） 特に古いものの分館、当然その運営費もかかるわけですが、人口が少なくなって本当に分館が必要なのかということも一つの課題であるということが一つ。あと、特に分館については、トイレ、水回りが非常に老朽してくると。その中でトイレの水洗化ということが非常に課題になってくると。そのときに、上限がたしか50万円ぐらいの補助金かなと認識しているのですけれども、水洗化についてももう少し対応していかないといけないのではないかなと。個人住宅については水洗化の推進はしているけれども、分館についても水洗にしたいという要望が結構あるようですが、そこら辺、これからどのような対応を考えるのかお伺いします。

○委員長（菅原隆男） 佐藤町長。

○町長（佐藤誠七） やはり先ほど来、災害関係なども含めてこのコミセン分館については非常に重要な部分があると、一時的な避難をさせていただくと。そういう中で、我々もメニューも相当準備をして整備をしてきたつもりでございしますが、ただ、今ご指摘のようにまだまだ未整備の部分も多々あるということも、十分理解をさせていただいています。これは私の住んでいる地域の中でも分館が整備されているという地域とそうでない地区があるものですから。ただ、いずれにいたしましても、水洗も含めていろいろ整備をしていくときには負担が伴うと。今ご指摘があったように、それぞれの家庭の負担がふえてくるということで最終的な議論がまとまらないというケースも相当あるようでございます。そのようなことを含めて、今後地域のもう少し要望なども詳細にお聞きしながら、どのような方法が一番地域の中でご理解いただきながら、また負担もしていただけるような環境をつくれるのか少し検討をさせていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思っております。

○委員長（菅原隆男） 6番、樋口委員。

○6番（樋口与一郎） 概要書の4ページ、商工費の企業立地促進事業の1,000万円、これについてお伺いしたいと思います。具体的な詳細をまずお伺いします。

○委員長（菅原隆男） 齋藤産業振興課長。

○産業振興課長（齋藤重雄） 本件につきましては予算の当初の時期にはわからなかった件でございまして、新たに運輸業を営んでいらっしゃる事業所さんで倉庫を建設なさるという部分の内容でございまして。

○委員長（菅原隆男） 6番、樋口委員。

○6番（樋口与一郎） 今の答弁ですと一事業者ということになるわけですが、平成28年度の白鷹町の企業立地促進事業費の補助金の交付要綱によりますと、この対象と

なるものは、目的の中で、雇用機会の拡大及び企業の育成を図るためとなっているわけですけれども、この場合、想定される中で、どのぐらいの雇用の機会がふえるのかまずお伺いしたいと思います。

○委員長（菅原隆男） 齋藤産業振興課長。

○産業振興課長（齋藤重雄） お答えをさせていただきます。

本要綱につきましては、現在も町のホームページ等で公開をしているものでございます。この要綱につきましては、26年にいわゆる大規模な増設であるとかそういったものをなさる企業さんしかなかなか利用することができなかったというようなことで、細分化をした経過がございます。そのようなことで、現在の要綱で別表でいくと3つの段階に分かれているというような状況になってございます。

今回の雇用の数につきましては、2名の増加というようなことで伺っているところでございます。

○委員長（菅原隆男） 6番、樋口委員。

○6番（樋口与一郎） 今、課長の答弁の中で細分化してという話がございました。それで別表の話もございましたけれども、この1,000万円以内の補助金ということの中で、交付要件の中では、雇用者、新規に新築の場合10人以上となっているわけですが、記載と運用のどちらかに誤りがあるのでしょうか。どちらが正しいのでしょうか。

○委員長（菅原隆男） 齋藤産業振興課長。

○産業振興課長（齋藤重雄） お答えをさせていただきます。

これにつきましては、別表1になるわけですけれども、新設、移設、増設というような3つの分かれ方をしてございます。今回の物件については増設というようなことでお話をいただいているところでございます。

○委員長（菅原隆男） 6番、樋口委員。

○6番（樋口与一郎） 新たに新設ではなくて、増設という対応の仕方という考え方ですか。

○委員長（菅原隆男） 齋藤産業振興課長。

○産業振興課長（齋藤重雄） お答えをさせていただきます。そのとおりでございます。

○委員長（菅原隆男） 6番、樋口委員。

○6番（樋口与一郎） それから、別表の中で固定資産税相当額の減免ということがあるわけですけれども、こちらの要件は、別表によりますと用地面積が1,500平米以上という形になっているわけですが、これは制限はないわけですか。幾ら広くても構わないと。

○委員長（菅原隆男） 齋藤産業振興課長。

○産業振興課長（齋藤重雄） お答えをさせていただきます。

皆さんは別表とかご存じではないので大変申しわけございませんが、これは後ほどホ

ームページ等でごらんになっていただきたいと思います。固定資産税相当額の減免の措置については別表3のとおりでございます。用地面積は1,500平米以上というようなことで、それから建物、機械設備等の投下固定資産額が300万円以上、新設の場合ですと雇用者は新規に5人以上ということで、この全ての要件を満たすことというようなことでございます。新設の場合はそうなるでございます。なお、移設、増設についても同じでございます。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） 概要書の教育費、ICT教育環境整備推進についてお伺いしたいと思います。これはタブレットなどを小学校に導入するという事なんですが、具体的な台数なり、そこら辺の説明を求めたいと思います。

○委員長（菅原隆男） 菅原教育次長。

○教育次長（菅原良教） ご説明を申し上げます。

今回のこの事業につきましては、学校現場のほうでわかりやすい授業づくりということで、それに向けまして県のほうで28年度の新規事業ということでICT教育環境整備推進事業という制度をつくりまして、その補助金を活用させていただいて整備をするという内容のものでございます。

基金の整備の概要ですけれども、プロジェクター付のホワイトボードということで、俗に今まで電子黒板と言っていた部分のものです。それを2校に2台ずつということで4台を導入します。あと、タブレットPCを2校に8台ずつ16台ということで導入をする予定です。導入するのは、小学校が対象となっておりますので、小学校のほうで先行的に数学を頑張っている蚕桑小学校、体育関係で力を入れている鮎貝小学校ということで当面2校を先行導入をして、事業の継続状況を見ながら残りの2校にも次年度あたり対応できればと考えている状況でございます。以上でございます。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） ホワイトボードについてはわかりましたが、タブレットについて、これは一人一人利用するという形だと思うのですけれども、これは学年的には6年生とか何年生なのかをお伺いしたいと思います。

また、このタブレットの指導、使用の方法論については先生方が指導するのでしょうか、そこら辺お伺いします。

○委員長（菅原隆男） 菅原教育次長。

○教育次長（菅原良教） タブレットPCにつきましては、先ほど申し上げました1校につき8台ということですが、本来であります1人1台ということで準備をしたいわけですけれども、今回の事業につきましては一応450万円上限で、3分の1助成の150万円というような上限がございます。その範囲ということで、当面2校に対して若

干一般財源もいただきながら対応するというにしております、当面であります、大体4人1班で1台を使うというイメージで、各校1クラス分ということで考えているところでございます。

あと、指導体制の部分でありますけれども、当然先生のほうが基本的には指導することになります、そこでもなかなかわからない部分というものに対応するために、今回委託料ということで、指導できる方をお願いをしてお聞きしながらなれていきたいということで考えているものでございます。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） 当然将来的には1人に1個ずつというような配置をしなければならぬと思うのですけれども、この指導者については臨時職員という扱いでやるのでしょうか。

○委員長（菅原隆男） 菅原教育次長。

○教育次長（菅原良教） 臨時職員ということではなくて、あくまで委託料ですので、その機器に精通している方について、そういう法人等々かと思いますが、そういうところに委託をしてご指導いただくというようなことで考えております。

○委員長（菅原隆男） 9番、奥山委員。

○9番（奥山勝吉） これは目的がわかりやすい授業づくりの推進ということなのですが、これはいつごろこの成果を調査するという考えがあるのでしょうか。

○委員長（菅原隆男） 菅原教育次長。

○教育次長（菅原良教） お答えをいたします。

成果の確認ということでございますけれども、先ほど申し上げましたように、当面まず2校に導入をさせていただきます。その導入をした状況について、各校の授業をいろいろな町内の教師の方が参観をするような機会もございますので、そういったときに使用状況等々なども見せていただきながら、その状況について皆様からもご意見などをいただきながら評価をしてまいりたいと考えております。

○委員長（菅原隆男） 7番、田中委員。

○7番（田中 孝） 今の話、質問と関連するのかなと思いますけれども、概要書の3ページですけれども、この民生費の中での東根児童クラブふれあいっ子の件ですけれども、今お聞きしましたら蚕桑と鮎貝小学校だということで、あれっ東根小学校でなかったのかということで、関連性が、東根児童クラブふれあいっ子にするパソコンやタブレットということでありますけれども、この件についても関連がございますか。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） お答え申し上げます。

やはり小さなうちからパソコンやタブレットに親しんでいただくということがもう既

に必要とされておりますので、学童においても、そういった時間で本来ですと家庭に帰って家にあるパソコンを利用していろいろな表などをつくったりしているお子さんがいるわけですが、そういうことができない状況にある中で、放課後児童クラブとしてそういったパソコン等を設置したいという要望があったものですから、今回ふれあいいっ子で整備するものでございます。

○委員長（菅原隆男） 7番、田中委員。

○7番（田中 孝） わかりました。この放課後児童クラブで、今回東根児童クラブふれあいいっ子が初めてなのですか。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） お答え申し上げます。

今回初めてで、東根地区を対象に補助するものでございます。

○委員長（菅原隆男） 7番、田中委員。

○7番（田中 孝） どういう形でさっきのいわゆる講師の方を頼むのか、小学校の場合とかあったんですけれども、児童クラブの指導とか、あるいは子供たちに任せてただ遊ばせるという考えなのか、時間潰しさせるのか、きちっとした教え方をするのか、その辺を聞いていましたら教えてください。

○委員長（菅原隆男） 齋藤健康福祉課長。

○健康福祉課長（齋藤春美） お答え申し上げます。

そこまでの詳しい内容についてはこちらで把握をしていないところでございますけれども、やはり子供たちに身近にそういうものに触れさせたいという施設での希望だったものですから今回補助するものでございます。特に新たに指導者を設けてということまでは聞いておりません。

○委員長（菅原隆男） 7番、田中委員。

○7番（田中 孝） よい方向に行くように指導方よろしくお願いをしたいと思います。以上。

○委員長（菅原隆男） 質疑終結と認めます。

○議第83号の説明、質疑

○委員長（菅原隆男） 次に、議83号 平成28年度白鷹町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）についてを議題といたします。

補正予算説明書の概要について説明を求めます。中村町民課長。

○町民課長（中村裕之） ご説明申し上げます。

補正予算説明書の概要5ページをお開き願います。

国民健康保険特別会計、補正額72万1,000円。内容ですが、国保制度改正（広域化）

に伴うシステム改修への対応として、総務費72万1,000円でございます。

事業概要について申し上げます。

平成30年度からの国民健康保険広域化に対応するための準備業務でありまして、今年度10月ごろをめどに、県においては国保事業費納付金等の試算を行うこととされております。この算定に必要なデータを抽出し、県と町との情報連携を図る必要があることからシステム改修を実施するものでございます。

財源につきましては、国民健康保険制度関係業務準備事業費補助金でありまして、補助率は10分の10であります。

以上であります。

○委員長（菅原隆男） 説明が終わりました。

歳入歳出一括して質疑を行います。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（菅原隆男） 質疑なしと認めます。以上で質疑を終了します。

○議第82号の採決

○委員長（菅原隆男） これより採決を行います。

この採決は起立によって行います。なお、起立されない方は否決とみなします。

初めに、議第82号 平成28年度白鷹町一般会計補正予算（第1号）について採決いたします。

議第82号について原案のとおり可決すべきものとするに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（菅原隆男） 全員起立。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議第83号の採決

○委員長（菅原隆男） 次に、議第83号 平成28年度白鷹町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について採決いたします。

議第83号について原案のとおり可決すべきものとするに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（菅原隆男） 全員起立。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で本予算特別委員会に付託された補正予算2件の審査が終了いたしました。

なお、委員会審査結果報告については委員長に一任いただきたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長（菅原隆男） ご異議がないので、審査結果報告は委員長に一任されることに決
しました。

○閉会の宣告

○委員長（菅原隆男） これをもって予算特別委員会を閉会いたします。
ご苦労さまでした。

閉 会

〈午後 3 時 4 0 分〉